

戦争って、いのちだけを奪うの？

約80年前、日本でも こんな戦争がありました

日本が戦った最後の戦争は、全世界で5000万人以上（兵士約1700万人、民間人約3400万人）の戦死者を出した第二次世界大戦です。

1939（昭和14）年にドイツがポーランドに侵攻したことから始まり、世界中に広がりました。日本も、1941（昭和16）年12月にハワイの真珠湾を攻撃したことで、アメリカとの戦争が始まりました。

激しい戦いの末、1945（昭和20）年5月にドイツが降伏し、8月に広島、長崎に原子爆弾が投下され、日本が降伏して第二次世界大戦は終わりました。日本はこの戦争を反省し、二度と戦争を起こさないことを世界に誓い、平和主義を掲げる国になりました。

戦争は最大の人権侵害

戦争が長引くにつれて食料や燃料、衣料などが不足し、人々は厳しい生活を強いられました。また、戦争に反対するような言論や行動が厳しく取り締まられました。

平和に、健やかに、豊かに暮らしたい。考えていることを自由に表現したい…そんな当たり前の願いが否定されるのが戦争です。何よりも、人権の大前提である「いのちそのもの」を危険にさらし、「生きる権利」を奪う戦争は、最大の人権侵害といえます。

たとえば

学校に行けない

食べるものがない

住む場所がない

言いたいことを
言えない

働かされる

大変な思いをした人が
たくさんいたんだね。

そうだったんだ！

いろいろな人権侵害が
あったんだな。

知らなかったなあ。